

## 平成24年度研修会(1) (看護師等医療従事者が働き続けやすい職場環境をシフト編成から考える研修会)

とき：平成24年11月22日(木)14時00分～16時30分

ところ：山梨県看護協会 看護教育研修センター 大研修室

今年度は山梨県看護協会さまの大研修室をお借りしての開催です。今回は、県内45の病院・診療所、関係機関から看護師の方をはじめ99名の方にご参加いただきました。多数のご参加ありがとうございました。

昨年度のアンケートでは、今後の取組として労働時間に関する研修を希望する声が多く寄せられました。なかでも、医療機関で採用されている割合が比較的高い「1か月単位の変形労働時間制(いわゆる勤務シフト制)」を研修テーマにしたのが、今回です。

研修の前半では、法的な留意点を参加者に再確認していただくこと、「1か月単位の変形労働時間制の導入・運用にあたっての労働基準法上の留意点」と題して、山梨労働局監督係長から、導入のために必要な手続きや、休日振り替えのルールなどを説明いたしました。



研修の後半は、東京都千代田区で医療機関向け勤怠管理システムの開発などを手がけていらっしゃる企業、株式会社メディシステムソリューションから代表取締役豊永寿晴氏をお招きし、「看護勤務表作成におけるコンピュータ支援の現状と課題」と題してご講演いただきました。

豊永氏からは、「勤務表は看護師の永遠の愛読書」「スタッフの誰もが1か月に何度も穴が開くほど読む愛読書」と印象的なフレーズを冒頭披露いただき、勤務表システムのマーケットの現状や、看護師長の勤務表作成ノウハウを分析した結果などを紹介いただきました。また、今後の開発上の課題としては、自動作成機能の向上が挙げられるとのことでした。



豊永寿晴 氏

参加者からは

「勤務表作成にあたってのポイントや、どのようなルール作りをするとスタッフに不平不満が出ないか等の方法が聞けるとよかった」

「勤務表作成にコンピュータ支援を導入することはまだ難しいと感じた」

といった貴重なご意見をいただきました。

こうしたご意見は、翌年1月に予定しているワークショップの開催に活かしたいと考えております。

また、参加者からご要望いただいた今後取り上げてほしいテーマ等についても、次回以降の研修会に役立てさせていただきます。

**平成24年度研修会（2）**  
**（看護師が働き続けやすく、患者様にとっても望ましい  
シフト編成となるよう更なる改善を図るワークショップ）**

とき：平成25年1月22日（火）13時30分～16時30分

ところ：財団法人山梨県甲府・国中地域地場産業振興センターかいてらす 3階 円卓会議室

本年度の取組の第一弾として、昨年11月22日（木）に「看護師等医療従事者が働き続けやすい職場環境をシフト編成から考える研修会」を開催いたしました。引き続き第二弾として、より実践的な取組である、シフト編成に関するワークショップを開催いたしました。

本当ならば1月22日（火）と24日（木）の2回開催する予定でしたが、残念ながら十分な参加申込みをいただくことができず、回数を1回にしての開催となりました。

参加いただいた方は7病院9名と少ない人数ですが、お一人おひとりが積極的に参画しながら、ざっくばらんに対話する場をもつことができました。ご参加いただき、ありがとうございました。

それでは、当日の様子を御紹介します。

まずは、5名グループと4名グループそれぞれがチーム名を決めてチェックインです。

5名グループはピッチチーム（ナースコールとしてピッチ（携帯電話）がどこの病院でも利用されていることから）、4名グループは鍵チーム（麻薬金庫の鍵や手術病棟EV用の鍵など、看護師にとって鍵は必要不可欠なことから）とチーム名が決まりました。

つづいては、「患者様にとって望ましい看護となるには」と「看護師が働き続けやすくなるには」の2つを命題にして、チーム内で「現状と課題」「対応策」「対応策を実現するためにどのようなシフト編成やシフト編成に関する工夫が考えられるか」について対話していきます。お互い見ず知らずということもあってか、最初は静かなスタートでしたが、そこはご安心ください。労働局のファシリテーター（働き方・休み方改善コンサルタント）がサポートに入ります。

ほどなく対話は盛り上がりを見せはじめ、ときには笑い、ときには驚きの声が聞こえてきます。

ホワイトボードに掲げた図表枠は、いつのまにか、意見や提案が書き込まれた付箋でにぎやかになっていました。対話に一息入れるときは、ときおりお茶や飴といったリフレッシュメントを口にします。これもワークショップの醍醐味かもしれません。

こうして対話は盛り上がり続け、アクションプラン（現状分析、課題、課題解決策などを盛り込んだ計画書のこと）の下地ができたところで、予定時刻を迎えました。労働局から、アクションプランの作成の仕方や、働き方・休み方改善コンサルタントによる個別訪問制度を御紹介して、ワークショップは閉幕です。

参加者からは「役に立った」と好意的な声を多くいただきましたが、「もう少し参加人数が多くないと、情報交換が少なすぎるように思う」といった貴重な意見もお寄せいただきました。こうしたご意見は、次回以降の研修会に役立てさせていただきます。